

- 当地域では平成27年より種なし大粒ぶどうの振興が始まり、平成29年までに7.0haまで増加した。
- 果樹未経験者が多く、栽培技術向上支援とブランド化を目指した販売支援を実施した。
- その結果、栽培技術は向上し、令和4年には生産量31tまで増加した。
- また、地元においてもぶどうの認知度が向上している。

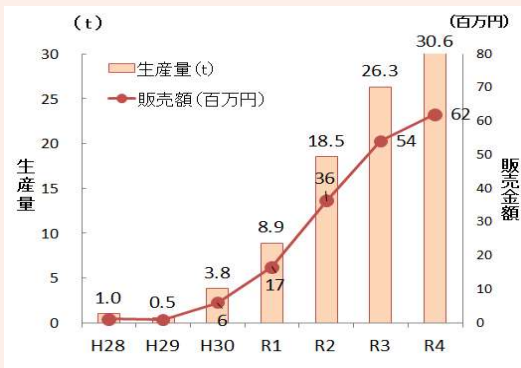
具体的な成果

○生産者の栽培技術向上

栽培暦を作成し、講習会等で配布を行ったことで着実な技術力向上が行われた。

○生産量、販売額の増加

生産量 令和元年 8.9t⇒令和4年 31t
販売額 令和元年 17百万円
⇒令和4年 62百万円



生産量と販売額の推移

○栽培面積の増加

技術向上や販売先確保により既存栽培者の面積増加。

栽培面積 平成27年6.0ha
⇒令和4年7.9ha

○生産物を活用した商品開発

生産部会の活動により、アイスクリームが開発され、観光客を中心に好調に販売されている。

普及指導員の活動

○平成30年

組織育成に向けた視察研修
先進地の長野県に視察を行い、産地形成に向けた取組を行った。

○令和2年

ぶどうの技術指導および販売支援
生産物を利用したアイスクリームが商品化された。

○令和3年

個別巡回指導
技術レベルに応じた巡回指導や講習会を開催し、栽培技術の底上げを図った。

○令和4年

軽労化、省力化技術の導入推進
上腕アシストスーツ、サポーター体験会の実施、乾電池式ジベ処理器の導入により作業効率が向上した。

普及指導員だからできたこと

○全生産者への巡回指導

管内JAと協力し、全生産者の園地を巡回したことや、生産者の技術レベルに応じた指導ができたこと。

○各生産者へのアンケート調査

個別にアンケートを取り、栽培上の課題を見つけ、巡回指導に活用したこと。

秋田県

種なし大粒ぶどう産地の生産力強化に向けた普及活動

活動期間：平成30年～継続

1. 取組の背景

ぶどう栽培がほとんど無かった地域において新たな産地づくりが平成27年より開始された。栽培ほ場が点在しているため、各生産者間で技術レベルに差が生じてしまっている。そこで、管内JAと協力し、生産者に指導を行い、品質向上を図った。

2. 活動内容

・組織育成に向けた先進地視察

ぶどう生産の先進地である長野県の生産者やJAを視察し、産地化に向けたノウハウや栽培技術などの向上が図られた。

・ぶどうの技術指導、販路支援

栽培暦を作成し、配布することで、栽培者ごとのムラを少なくし、品質の安定化と栽培技術の底上げを行った。平成30年に設立された部会の中で、収穫物を活用した商品開発が行われ、アイスクリームが商品化された。



シャインマスカットアイスクリームの見本

・個別巡回指導

栽培者が増えた事で、栽培技術等の差により品質に差が生じたことからJAと協力することで管内の全栽培農家に巡回指導を行い、栽培技術の底上げを行い、品質を向上させた。

・軽労化・省力化技術の導入支援

栽培者には高齢者が多く、収穫量の増加による負担が大きくなったため、省力化が必要であった。パワーアシストスーツの実演会を開き実際に使用することで有用性を体験してもらう事が出来た。

また、乾電池式ジベレリン処理器の実演会を開催し、実際に導入にした農家ではジベレリン処理作業の効率が上がった。



個別巡回指導
(せん定指導)

3. 具体的な成果（詳細）

- ・生産者の栽培技術向上

栽培暦を作成し、講習会等で配布した事で、生産者の栽培管理技術が向上し、産地として生産物の品質安定に繋がった。

- ・生産量・販売額の増加

個別の巡回指導やアンケートによる個別の課題抽出により、生産部会内での栽培技術を着実に向上させた事により、生産量が令和4年には31t、販売額が62百万円に増加した。

- ・既存栽培者の面積増加

栽培農家の技術力の向上と販路の確保による販売額増加により、栽培面積が平成27年には6.0haであったものが令和4年には7.9haまで増加した。

4. 農家等からの評価・コメント（仙北市A氏）

ぶどうの栽培経験が無く、当初は困難な事が多かったが、JAや普及員と協力して栽培方法や販路について考えたおかげで現在では大分安定している。もっとブランドとして有名になって若い人にも参加してもらえるように地域で頑張っていきたい。

5. 普及指導員のコメント（仙北地域振興局・副主幹・小松美千代）

過去に2度凍害による被害があり、生育不良が発生したものの、個別巡回を行っていたため、各自の被害に合わせた指導を行い、被害を軽減する事が出来た。今後も面積拡大が見込まれ、新規栽培者も増加するので地域一体でブランドを形成出来るように栽培技術の安定化と販路拡大の取組を行っていききたい。

6. 現状・今後の展開等

クビアカスカシバによる被害が年々拡大傾向にあるため、各園地での防除徹底を指導していく。

短い期間で2度の凍害が発生しており、今後も発生する事が予想されるため、凍害に強い樹体作りが出来るように栽培者に合わせた指導を行っていく。